



塩硝の道 (五箇山)

「富山署」塩硝の道とは、江戸時代に加賀藩が五箇山で製造した火薬の原料「塩硝」(塩硝製造は秘密にされていたため煙硝の煙は「塩」の字を使っています。)を金沢まで運んだルートで、西赤尾・小矢部国有林内を通る南砺市西赤尾からブナオ峠、刀利を経て金沢に至る道が「塩硝の道」として最も多く使われていたそうです。

この火薬の原料となる硝石は、日本では天然での産出ができなかったため、江戸時代は民家の床下の土から人工的に抽出していました。加賀藩は塩硝の質・量とも全国一を誇っており、その全てが五箇山で生産され、金沢に運ばれていたそうです。現在ブナオ峠までの八百区間の道が「ブナオの四十八曲り」として整備されており、七月八日には名古屋CF事業により、塩硝の道を実施し散策しやすいように整備しました。



五箇山・こぎりこ踊り

この区間は、ブナの木が生い茂り、難所といわれた箇所です。重い塩硝を担いで通った先人の苦勞がしのび、五箇山地区から金沢を結ぶ壮大な歴史ロマンを思い起こさせてくれます。また、ブナオ峠は、大門山・奈良岳方面への登山道入り口にもなっています。

五箇山といえば五箇山合掌造り集落

として菅沼及び相倉合掌造り集落が有名ですが、この二つの集落は平成七年十二月九日に、岐阜県白川郷とともに世界文化遺産に登録されました。認定された背景には、合掌造りのすぐれた建築とともに、周囲の田畑やあぜ道、水路、石垣、雪持林なども含めて昔ながらの景観が維持されているのが、日本全国でも五箇山



世界文化遺産・相倉合掌造り集落

と白川郷だけであること等が評価に値したそうです。菅沼に九棟、相倉に二十三棟の合掌造りがあり、ミシユラン・グリーンガイド・ジャポンでも「行く価値あり」との評価で五箇山が最高峰の三つ星を獲得しています。

菅沼合掌造り集落内には、塩硝の製造工程を展示した塩硝の館もあり、塩硝の製造が五箇山の一大産業であったことが分かります。

その他五箇山では、日本最古の民謡「こきりこ節」が有名で、特徴的なお囃子「デレレコデン」は一度は耳にされたことがあるのではないのでしょうか。「村上家」(国の重要文化財)で鑑賞することができます。(要予約)

◆アクセス

五箇山ICから車で

塩硝の道 県道福光上平線

約二十分

菅沼合掌造り集落 国道一五六号経由

約五分

相倉合掌造り集落 国道一五六号

三〇四号経由 約十五分

村上家 国道一五六号経由

約十分



塩硝の道を歩く登山者